
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 364 号

- 環境・農業・食べ物など情報の交流誌 -

2014.02.14 (金) 発行 山崎農業研究所 & 編集同人

< キーワード >

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所 & 『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1,064 部*****

目次 -----

< 巻頭言 > 東京都民は正しい選択をしたか 渡邊 博

< 山崎農業研究所 第 147 回定例研究会 速報 (要旨) >

話題提供：宇根 豊氏 (百姓・農と自然の研究所)

テーマ：愛郷と国民国家の対立

TPP 問題へのもう一つの視座

< お知らせ > 山崎農業研究所所報『耕 No.131』発行されました

< 編集後記 > 忘れてはならないことども 都知事選をめぐる

< 巻頭言 > 東京都民は正しい選択をしたか

「建国記念日」にこの原稿書いている。安倍首相は「美しい日本」の再発見を謳い文句に、この国を再構築したいようだ。私は農村に見る日本の原風景がたまらなく好きだ。明治の初期に東北を旅した英国の紀行作家イザベラバードは、日本の農村の庶民はよく笑い、シャイだが優しく、子供は大切にされると、少しのおどろきを持って書いている。たおやかで、寛容で、したたかでたくましい農村の文化はまさに美しい日本のバックボーンであった。そのような社会で育まれた素朴な伝説や民話は、いつしか支配者に都合よく改変されて皇国史観が創作された。このような史観で「美しい日本」と言われてもなんとなく居心地が悪い。

今度の都知事選挙は、原発問題が大きな争点の一つになるはずだったが、蓋を開ければ原発隠しの目論みが功を奏したかのようだ。原発問題は国の施策課題であるから地方選にはなじまないと言っておきなが、反原発候補が負けたので、さあ、原発推進だと言い出す連中には空いた口がふさがらない。

原発問題を通じて、地方のありかた、政治のあり方、そしてこの国の将来の

有り様が問われている。しかし、東京都民はとりあえず当座の利益を選択したのだろう。ネット右翼と言われる若者の投票率が以前と比べて異様に高かったことも今回特徴的であった。彼らなりの「美しい日本」をネットの中だけで夢見ている時は終わり、いよいよ外に向かって動き出したと感じさせられる。

私は戦後生まれの団塊の世代であるが、直接戦争を体験した親や教師から戦争の酷さ、理不尽さ、平和の尊さを直接教わった世代である。しかし、世代が下るにつれ、戦争への危機感は確実に希薄になってきている。中国や韓国からの、私も不愉快な気分させられるほどの日本バッシングに対して、過剰に反応してしまう若者も少なくない。

目先の利益しか考えない、あるいは偏屈な愛国主義による投票行動は、冷静に考えてみると、不安定な雇用環境、劣化が止まらない年金、教育、医療・福祉など、未来が見えないなかで、せいぜい未来を感じさせてくれるのは東京オリンピックだけというお寒い世情では当然かもしれない。

しかし、美しいフクシマを、美しい東北を奪ったことに対し、エネルギー基地、食料基地として散々利用させてもらった東京都民には大きな責任があるはずである。世界一の都市東京、日本の牽引車東京、とかいうのであればなおさらである。都知事選の選挙権が欲しいと言っていた東北の人の顔が忘れられない。

渡邊 博

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

< 山崎農業研究所 第147回定例研究会 速報(要旨) >

日時：2014年2月1日(土) 14:30~17:30

場所：NTC インターナショナル(株)会議室

東京都新宿区四谷 3-5 不動産会館 5F

話題提供：宇根 豊氏(百姓・農と自然の研究所)

テーマ：愛郷と国民国家の対立

TPP 問題へのもう一つの視座

TPP では経済主導の考え方で進められている。非経済の問題、郷土愛とか風

土を愛する心については、全く考えられていない。経済的社会はナショナリズム、非経済的なものはパトリオティズム（パトリ）に通ずるが、近代的な農業技術はパトリな百姓の心を欠いている。われわれが農業を考えると、科学的な見方で物事を外から「客観的」に判断している。しかし、百姓は農を中から「主観的」に見ようとする。

この両者から農業を見ないと TPP も正しく評価されない。科学的な見方のみは「学」となった。外から見た農の合理性には百姓の心、内的な非経済的な考えがない。今までの古い農本主義はイデオロギーとして、知的な人々が外から見た科学観で論じた。だから農本主義をナショナリズム的、あるいは右翼的な思想と考えられてきた。このような農本主義では多くの人々の支持は得られず、衰退した。

新しい農本主義は内から見た非経済的な価値観を大切にしている。内から見ることは、在所の心、郷土を愛する心を大切にすることであり、今までの農本主義とは異なる。農業には工業的な生産と異なった特別なものを持っている。

これを理解するためには、農の原点、農の原理主義の出発点に戻ることである。これは近代化された科学主義に対して対抗する主義ともいえる。1920年代から農本主義が論られた。これは近代化、現代主義への不条理への対抗勢力として生じた。経済性からは農業は工業にかなわない。これへの抵抗勢力である。

近代化を進めれば益々、自国の農は成り立たなくなる。食料が外国から入ってくるなら、これも外国の農業に寄与しているのではないか、という経済面からの反論が出てくる。資本の論理では農業が国際性を持つ方が経済的にも有利となる。これへの対抗（農からの反論）として内なる心を大切に、農をもっと評価する事を主張せねばならないと思う。原発でも同じことが言える。内なる心が問われてくる。

例えば福島県原発災害で、生産者との契約を打ち切った消費者もいる。しかしやめない人もかなりいる。放射能の安全基準は人為的に決められたものであり、絶対的な値ではない。契約を続ける人は、福島の人と共に生きて行こうと思った人であり、これは今までの科学的な土俵では議論できない。

このような新しい非経済的な分野での評価がいま必要であると感じる。科学は国側が作るが、これでは真の愛国とはならない。これとは別に郷愛、在所の

愛が農の心として存在する。これが愛国心の最も大切な原点と思う。近代農業以前、農村は内なる心で強い豊かな社会を築いてきたが、それが近代化によって失われた。これを今、見直す必要がある。

(文責：安富・田口。当日の内容は『耕 No.133』で紹介します)

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.131』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.131』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布(有料：1,000円)いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》(巻頭言)

こうしてこの「くに」は変わるのか TPP 交渉の行方 小泉浩郎

第37回山崎記念農業賞贈呈式(長野県辰野町・倉澤久人)

〔選考委員報告〕 田口 均

〔山崎記念農業賞を受賞して〕 倉澤久人

〔お祝いの言葉〕 月岡道孝

総会記念講演：電力需要に応える再生可能エネルギー

I ローカルエネルギーの現状と展望 渡邊 博

II 小水力発電の現状と課題 新谷和夫

[第145回定例研究会] TPP 交渉参加を問う 選択肢は TPP だけか?

I TPP 反対運動について 米韓 FTA から何を学ぶか 金 哲洙

II ラテンアメリカの「より良く生きる

(vivre bien) 運動」に学ぶ 吉田太郎

特別寄稿：TPP 問題へのもうひとつの視座

・日本とアジア諸国が進むべきはアメリカ式の

「通商国家」への道ではない 中島紀一

・ナショナルな価値と在所の価値との断絶、

原理主義の希望 宇根 豊

TPP 参加交渉に思う

TPP は農村を元気にするか * 寒河江 巖 / 振り上げた拳はどこへ * 大河原幸一 / 息苦しい未来への心配 * 多田 敦 / 酪農・乳業での経済一体化の方向への新たな方策 * 石川秀勇 / ぶれない農の営みを続けたい * 北村 誠

随感 2011.3.11 東京に一番近い原発・東海第二で
何があったのか... / 塩谷哲夫

< 編集後記 > 忘れてはならないことども 都知事選をめぐって

都知事選が終わった。結果は梶添氏が 2 位（宇都宮氏、98 万票）、3 位（細川氏、95 万票）の「脱原発」候補に対してダブルスコアでの圧勝（211 万票）であった。

今回は前日の大雪の影響からか投票率がたいへん低かった（46%）。マスコミによる「梶添候補優勢」のニュースに「投票したって結果は変わらない」と考えた人も少なからずいるらしい。そうなると、組織票に支えられた梶添氏がいよいよ有利になるのは自明の理である。

こわいな、と感じたのは、田母神氏の 61 万票。彼は原発事故による放射能問題などない、と言い続け、ツイッターでは、福島県による県外避難者支援の打ち切りについて「人の支援を得て避難することが当然という風潮はおかしい。自分で勝手に避難しろと言いたい。甘えるな」と発言している（東京新聞 2014/02/11 より）。

「原発問題は都知事選にはそぐわない」と言い続けた政府だが、エネルギー基本計画の閣議決定を先延ばしにしてきたのは、都知事選の結果を見定めたいということだったのだろう。案の定、都知事選直後、安倍首相は再稼働への積極姿勢を示している。

しかし当選した梶添氏だって、「原発に依存しない社会をつくる」「再生可能エネルギーを 6%から 20%にする」「将来的な原発廃止をめざす」と選挙戦中明言してきたのだ。また、「脱原発」を鮮明に押し出した 2 候補の投票総数は梶添氏の得票にそうとう迫っていることも見逃してはなるまい。

だが榊添氏は勝利宣言の際、「原発依存体質を少しずつ減らすのは重要だが、
国との調整も必要」とも発言。「調整」とはいったい何を示すのか。

本号の〈巻頭言〉にある、「都知事選の選挙権が欲しいと言っていた東北の人の
顔が忘れられない。」という言葉の重さ・切実さ。今回の都知事選をめぐっ
ては忘れてはならないことが多すぎる。

2014年02月13日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行 / 農山漁村文化協会発売

『自給再考 グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

辻信一さん(文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)
グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

戒谷徹也さん(大地を守る会)

ブログ:大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

吉田太郎さん(長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

関良基さん(拓殖大学政経学部)

ブログ:代替案 書評:『自給再考 - グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

大内正伸さん(イラストレーター・ライター)

ブログ:神流アトリエ日記(3)「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

ブログ:本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター / 資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

日本農業新聞 / 書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

小谷敏さん(大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」 / 「自給」の方へ(2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

白崎一裕さん((株)共に生きるために)

月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158 / しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

塩見直紀さん(半農半 X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名(見出し)を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字(機種依存文字)のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 365 号の締め切りは 02 月 24 日、発行は 02 月 27 日の予定です。

< 本誌記事の無断転載を禁じます >

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 364 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み / 解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2014.02.13 (木) 発行 山崎農業研究所 & 編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****

.